

通知票について

通知票は、学校教育が目指す学力観に立って、一人一人の能力・適性を望ましい方向へ伸ばそうとするためのものである。

1. 各教科の学習の記録

(1) 評価について

- ・前期、後期、学年末で評価。
- ・学年末の評価は、1年間を通した学習の評価。

(2) 『観点別学習状況』について

各教科の目標に照らして評価の観点を設け、その実現の状況を3段階で評価。

- A…「十分に満足できるもの」
- B…「おおむね満足出来るもの」
- C…「努力を要するもの」

(3) 『評定』について

観点別学習状況の評価を総合し、5段階で評価。

- 5…「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」
- 4…「十分満足できると判断されるもの」
- 3…「おおむね満足できると判断されるもの」
- 2…「努力を要すると判断されるもの」
- 1…「一層努力を要すると判断されるもの」

2. 選択教科の学習の記録

(1) 前期、学年末で評価。

(2) 『観点別学習状況』は、上記と同様に3段階で評価。

(3) 『評定』もA、B、Cの3段階。

3. 総合的な学習の時間

(1) 学年末で評価。

(2) 総合的な学習の時間に取り組んだ内容等を記入。

4. 特別活動の記録

各項目について主な事実と活動について記入。

5. 連絡の欄について

学校から家庭への連絡だけでなく、家庭から学校への連絡にも活用。

【資料】

評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）

－評価規準、評価方法等の研究開発（報告）－

平成14年2月

国立教育政策研究所

教育課程研究センター

第1編 総説

第2章 本資料の構成等

6

(2) 観点別学習状況の評価の評定への総括の考え方

略

観点別学習状況の評価の評定への総括においては、四観点の重点の置き方にかかわらず、中学校については「A、A、A、A」であれば「4」又は「5」、「B、B、B、B」であれば「3」、「C、C、C、C」であれば「2」又は「1」になる。上記の場合を除き、各観点ごとのA、B、Cが決まれば評定も必然的に決まるというものではないと考えられる。例えば、学校において、評定に総括する際の観点別学習状況の評価結果についての観点ごとの重み付けが異なることがあること、また、同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、このことが評定への総括に反映されることも想定されるからである。

略